

1. 略歴

1987年4月	東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
1990年10月	第二回ソ連給費留学生としてロシア国立レニングラード大学留学（～1992年9月）
1993年3月	東京大学教養学部教養学科第二地域文化学科（ロシアの文化と社会）卒業
1996年3月	東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）修士課程修了
1996年4月	東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）博士課程進学
1999年9月	東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）博士課程単位取得退学
1999年10月	北海道大学スラブ研究センター・COE 講師
2000年4月	神戸大学国際文化学部・講師
2001年4月	神戸大学国際文化学部・助教授
2001年8月	ロシア国立人文大学人文歴史学部（モスクワ）にて研修 （文部省派遣若手在外研修 ～2002年4月）
2003年1月	学位・博士（文学）取得
2007年4月	神戸大学大学院国際文化学研究科・准教授
2010年8月	イギリス・ケンブリッジ大学ウルフソン・コレッジおよびロシア国立人文大学人文歴史学部にて 研修（神戸大学若手教員長期海外派遣プログラム ～2011年4月）
2016年4月	東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

ロシア・ソ連の文学、ロシア・ソ連文化論、ロシア・ソ連演劇史。

b 研究課題

主としてロシア語による文学・演劇・映画を素材として、芸術表現の特質と可能性、時代や社会による価値体系の変容や人間関係の諸相を明らかにすることを目的とする。

c 概要と自己評価

ロシア・ソ連では、文学と共に演劇・映画がメディアとしても重要な社会的機能を担っている。これらのジャンルの創作が歴史的および現在の社会においてどのように受容されているのかを、笑い話や起源などの民衆文化も含め、現地調査と文献調査を平行して研究を行っている。近年の研究関心は翻案研究とロシア語をドミナントとするソ連文化形成との二つの領域にわたる。

ポストモダン以降の文化潮流においては、狭義の意味での作品のオリジナリティを論じることは難しくなっている。個別創作者の独創性や表現力がどのように評価されるのかを、文学と演劇・映画といった異なるメディアによる翻案作品を比較検証する。感情など視覚化言語化の難しいものが、メディアの変更にともない、どのようなメカニズムで情報が付与され/欠落する者に注目することで、演劇や文学それぞれのジャンル固有の表現特性の有無について考察を行っている。

さらに、ロシア連邦外の旧ソ連圏におけるロシア語文化の形成プロセスの再検討とポストソ連期における継承と離反の現況についての研究を進めている。特にコーカサス地域出身の創作者の活動に注目し、従来は画一的に中心から周縁へと一方的に伝達されたと考えられてきたソ連文化の多様性について再検討することを目指し、現地調査および文献調査をベースとした研究を行っている。

これらの成果は国内外の研究会、シンポジウムの企画し、参加することで国際的に専門の研究者間での交流を図り、論文及び共著書等において刊行している。現場で活動する創作者とも研究成果の共有をはかるために上映や講演の企画を実施し、学生にも授業等の場において成果を還元している。

d 主要業績

(1) 評論等

楯岡求美、「ロシア・ソ連研究から考える『分断と共感』」、第20回東京大学ホームカミングデー文学部企画『『共感』と『分断』』、東京大学文学部、pp.25-34 およびディスカッション部分（p.47、pp.53-54）、2021.2
楯岡求美、「キリル・セブレニニコフ監督『レット』2018」、『ロシア映画のひそかな愉しみ』、ロシア映画を勉強する会編、2021.1、pp.31-34

楯岡求美、『地下室の人々』のナルシシズムと自己喪失』、『AC²』、青森公立大学国際芸術センター青森（ACAC）、
2022.3.31、pp.110-114

(2) 発表・講演

a. 学会・研究会発表

楯岡求美「20世紀文学としてのソ連文化史：再考のための一助として」、第2回社会主義リアリズム文学研究会、
2021.2.4、(東京大学・慶応大学リモート開催)

b. 講演等

楯岡求美、劇団地点「ドストエフスキー『地下室の手記』上演アフタートーク」、吉祥寺シアター、2021.11.27

楯岡求美、劇団地点「マヤコフスキー『これについて/私自身』リーディング公演アフタートーク」、劇団地点アトリエ「アンダースロー」、2022.2.13

(3) 共同研究

科学研究費基盤 B (18H00655) 「ロシアとコーカサス諸地域の文化接触：受容と変容と離反のダイナミズム」(2018-2021)：研究代表

科学研究費基盤 B (16H05657) 「オーラルヒストリーによる旧ソ連ロシア語系住民の口頭言語と対ソ・対露認識の研究」(研究代表：柳田賢二・東北大学教授、2016-2019)：分担者

国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 (B)) 「多言語多文化芸術運動としてのトビリシ・アヴェンギャルドの歴史的資料調査と考察」(研究代表：増本浩子・神戸大学教授、2019-21)：分担者

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本ロシア文学会、理事、2016.10～2022.10、国際交流委員長、2016.10～2021.10